

# 平成30年度中学校外国語科の指導の重点

## 【本県の課題】（「H29県学力調査」より）

- 基本的な文法事項の定着に課題がある。
  - 話の内容を踏まえて、自分の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように書くことに課題がある。
  - 「英語（外国語活動）が『好き』」と答える児童生徒割合が、小6～中1、中1～中2にかけて大幅に減少する。
- ※ H27年度中学入学生徒 小6時：78.6%，中1時：58.5%，中2時：45.3%

## 【指導の重点】

- 段階的・継続的な言語活動により、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- 言語使用場面を明確に設定し、自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合う言語活動を充実させ、「書くこと」により定着を図る。
- 外部検定試験等を活用して多様な英文に触れさせるとともに、「英語を用いて何ができるようになるか」の視点で生徒の英語力を把握・評価する。  
（定期テスト内容の工夫、パフォーマンステストの計画的な実施）

## 【授業でこれから大切にしてほしいこと】 （年間・単元を見通した授業設計）

## 【具体的な指導例】（コミュニケーション活動の充実に向けた指導例）

### CAN-DO リスト

- CAN DOリストの見直し及び生徒との共有（年度当初に配付）
- パフォーマンステスト及び英検等外部検定試験を位置付けた年間指導計画

### 単元計画

- 「英語を用いて何ができるようになるか」を明確にした単元目標の設定及び到達に向けた単元構成の工夫
- 単元末の評価事項と時間の設定

### 例 一単位時間の授業計画

- 第1次（生徒の興味・関心を高める単元の導入）
- 第2次～第4次
  - Warm-up（本時の活動とのつながりを意識）
  - 本時の活動（必然性・相手意識・場面設定）
  - まとめ・振り返り（めあてに即しているか）
- 第5次（第2次～4次の学習を用いた活動）
- 第6次（単元のまとめ・振り返り）
  - 単元毎の単語、基本文の定着状況の確認
  - パフォーマンステスト
  - 「英語を用いて何ができるようになったか」の振り返り



### 達成できていない生徒への具体的な手だて

- 多様な英文に触れ、概要や要点を理解する活動の設定
- 定期テストの改善・工夫（言語材料面と自己表現内容のバランス）
- 実際に英語でコミュニケーションする体験的な場の設定

### 単元目標達成につながる本時の目標の設定

#### 常活動の充実

- 自分の言葉で会話するなど、即興性を持たせる。
- Answer+1形式で答え、既習表現を活用して会話をつなげる。
- 書く活動につなげ、単元の終わりに定着状況を確認する。

#### 課題設定と活動量の充実

- コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にする。具体的な課題を設定し、課題達成のための言語活動を段階的に設定する。
- 授業は英語で行うことを基本とし、教師は簡潔で明瞭な説明をして、生徒の言語活動量を確保する。

#### 授業や単元毎の到達度の確認

- 単元の始めにゴールとして設定したパフォーマンステスト等の内容
- 評価について明確に示しておく。
- 授業の中で、単元目標達成に向けた活動を組み込み、段階的に定着させていく。

Warm up

本時の活動

まとめ・振り返り

### ◆新学習指導要領の趣旨を踏まえて取り組むこと

- 小学校の授業参観をはじめとする小中連携及び中1の重点化
- 「英語授業づくりのポイント」「KUMAMOTO English Standard」の活用
- 外部検定試験を活用した目標設定による英語教育の推進
- CAN DOリストの見直し及び公開による有効活用

- 単元など内容や時間のまとまりを見通して、単元及び授業を構成する。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定する。
- 言語活動を行う際は、言語材料についての指導を必要に応じて行う。